

「手話・筆談」 さんせい



ろう児は"聞こえない子"ではなく、
「手話で話す子・眼の人」です。

3つの"さんせい"を
社会に広めてください。

ろう児に"声"を
求めないで

筆談での会話に
笑顔で応えて

日本手話を
言語として認めて

「手話・筆談」さんせい! 会員 募集中

目標12万人。千人に一人まで広がることを夢みて!

バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センターの活動

私たちはろう児を"耳の聞こえない人"ではなく、「手話で話す目の人」というプラスの価値観を社会に広げていきます。違いを認めて互いを尊重し、ろう児が聴児と同じように力を発揮し活躍できる社会づくりをめざします。

<主な事業内容>

- ・バイリンガルろう教育指導者研修プログラム、教材開発
- ・バイリンガルろう教育講座、手話動画発信
- ・ろう児、難聴児の子育て相談、情報提供
- ・日本手話絵本（絵本とDVD）、配布
- ・日本手話教室、ファミリー手話教室
- ・総合学習プログラム「ろうってなあに」（小・中・高校）
- ・各種講演（大学、地方自治体、企業など）
- ・企業HP手話動画制作
- ・ICOを活用した遠隔ろう教育の研究（計画中）

「手話・筆談」さんせい! 会員募集 ~多くの皆様とともに~

現在、多くの団体・企業様のご協力のもと、主に助成金で事業を実施しています。しかし、活動をより多くの方に知っていただくことで、ろう児の子育てに悩んでいる親御さんに情報が届くように。また、ろう児の明るい未来に活動を継続する上で安定した会費収入にて運営できるよう、今回の「手話・筆談」さんせい! キャンペーンを実施することにしました。年間2000円（月167円）という、比較的少ないご支援で多くの皆様にご参加いただき、多くの皆様とともに活動して行きたいと考えております。

目標は日本の人口1億2千万人の1000分の1の人（これは新生児にろう児が生まれると言われる確立と同じ）にまで、広がって欲しいと願いを込めております。

お問い合わせ先 特定非営利活動法人 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター（BBED）
〒143-0016 東京都大田区大森北1-30-1 三喜屋ビル2階 TEL/FAX .03-5767-5057
メール info@bbed.org HP <http://bbed.org/>



Bilingual Bicultural Education Center
for Deaf Children

「手話・筆談」さんせい！会員を募集しています。

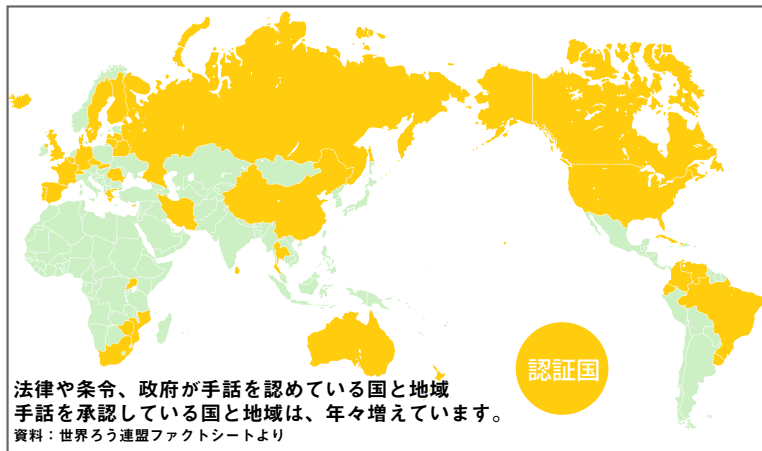
皆さんご存知ですか？日本のろう学校は、昭和8年から手話の使用を禁止して来ました。「聞こえない(聞こえにくい)子」は新生児1000人に1人生まれると言われてはいますが、現在でも、ろう児は自分の言語である「日本手話を学び」「日本手話で授業を受ける」ことはできません。そこで、皆さんにお願いがあります。ろう児が100%理解できる手話教育の選択肢を確保し、彼らの力を正当に評価できる社会の実現のために、社会を変える3つの提案に『さんせい』してください。

- ①ろう児に"声"を求めないでください。
- ②筆談に笑顔で応えてください。
- ③日本手話が言語として認められるよう応援してください。

日本のろう教育の実情

日本のろう学校では、昭和8年から手話を禁止し、ときには手を縛ったり、叩いたりして「聞く・話す」を基本に「聞こえる子に近づく」教育を行って来ました。それは社会に出たときに聞こえなくても、せめて話せたほうが良いという社会の価値観からです。そのため、補聴器や人口内耳をして幼児期から「聞く・話す」訓練が始まります。ろう児はどんなに訓練しても聴児(聞こえる子)にはなりません。口の動きを読み取ることは大変難しく、誤解も生じやすいのです。およそ100校ある既存のろう学校では、手話を禁止し、ろう児の言語である「手話を学ぶ」ことも「手話で学ぶ」こともできません。彼らは「手話でのわかる授業」を望んでいました。

一方、海外では、法律や条例で政府が手話を認め(約40の国や地域)、欧米では20年以上前から、アフリカやアジア(中国、韓国、タイ、ベトナム、バングラディッシュなど)では「手話」と「読み書き(書記言語)」という2つの言語を習得させるバイリンガル教育を行っています。



日本初！手話で学べる特区私立ろう学校の設立

ろう児は自分の言語である「手話」を自然に身に付け「手話」で学べば何でもわかるのです。たとえ聞こえなくても、話せなくても、「読み書き」ができれば、大人になって社会で自立し、インターネットを活用して何でもできる世の中です。



そこで私たちは、2008年4月、構造改革特区を使って、日本で初めて手話で学べる私立ろう学校「明晴学園(幼稚園・小学部)」を設立しました。「手話で学びたい」というろう者たちの75年間の夢が、多くの皆様のご支援によってようやく現実のものとなったのです。そして、2010年4月に「明晴学園(中学部)」が開校しました。

「手話・筆談」さんせい！でいっしょに社会を変えよう！

違いを認め、お互いが認め合うユニバーサル社会が実現

手話で話す子どもたちを個性として社会が認める。
聞こえない赤ちゃんの手話での子育てを応援・全国に。
筆談で楽しくおしゃべりするのがカッコイイ！社会に。



12万人登録達成

2020年(平成32)

企業・社会が手話で話す人を個性として認めることが、一般的になる

2016年(平成28)

大学が手話で話す子の受入れ開始

1万2千人登録達成

2013年(平成25)

高校が手話で話す子の受入れ開始

2010年(平成22) 明晴学園(中学部)開校

2008年(平成20)
手話で学べるNPO特区ろう学校
明晴学園(幼稚園・小学部)開校

1933年(昭和8)

手話全面禁止に日本の全ろう学校

1878年(明治11)

日本のろう教育のはじまり：京都盲唖院

新しい価値(プラス)の創出
(手話で話すことは個性・筆談ってカッコイイ)

- ・社会に出ても「手話」でいい。
- ・困った時は筆談にやさしく対応してくれる。
- ・手話で勉強したから、仕事もできる。
- ・聞こえなくても何でもできる。

社会に羽ばたくときに向けて

社会において「手話で話す子」の理解は十分とはいえません。「喋れなくてかわいそう」、「聞こえないから何もできない」など、聞こえないことをマイナス(欠損)として捉えるのではなく、違いを認め、お互いが認めあうユニバーサル社会を実現するためにも「手話で話す目の人」というプラスの価値観と、「筆談」というコミュニケーションを広げて行きたいと思っています。

スケールアップ

スケールアウト

20XX(平成xx)

全国レベルで手話で育てる環境が整い、ろう学校で手話教育の選択肢が保証

全国のろう児のために

聞こえない子の90%は聞こえる両親から生まれてきます。両親が、聞こえない赤ちゃんをありのまま受け入れ「手話」で自然に育てることが当たり前前の社会になって欲しい。そして、「手話を学び、手話で学べるろう学校」が全国に広がって行くことが、私たち、そして「ろう児の夢」です。

※手話は日本手話であり、日本語とは異なる文法構造をもつ独立した言語。日本語対应手話(手指日本語)とは異なります。

お申し込みは、オンライン会員登録(クレジット決済)で手続きは簡単
HPにて <http://www.bb.ed.org/>